

5. 研修旅行について

本年度は令和3年11月28日から3泊4日で北陸方面への研修旅行を実施した。当初は本年度10月に台湾への海外研修旅行を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況から、生徒の安全を第一に考慮し、まずは1学期初めに実施先を国内の九州方面に変更、さらに2学期初めに実施時期を11月下旬に延期、実施先を北陸方面に再度変更した。

<目的>

- (1) 地域との協働による高等学校教育改革推進事業グローバル型の取り組みの一環として、海外からの留学生等と英語を用いて交流することで、海外の文化に触れ、自他の文化の違いや共通点を感じ取り、国際社会への関心・理解を深める。
- (2) 広い視野と豊かな発想力を持ち、将来社会で活躍できるコミュニケーション能力、人間性を養う一助とする。
- (3) 集団生活を通して、集団における個人の在り方を考え、公衆道徳や自己管理の重要性を学ぶ。

<行き先>

石川県・富山県・岐阜県・福井県・愛知県・京都府

<期日等>

令和3年11月28日(日)～12月1日(水) 3泊4日

<旅程の概略>

A班(5クラス)とB班(4クラス)に分かれ、班ごとに同じ宿泊先に泊まった。旅程はクラス別とし、観光バスで移動した。バスは新型コロナウイルス感染症対策で各クラス2台に分乗した。

第1日目～3日目はクラス別に計画した研修を各地で実施した。第4日目は京都府にてB&Sプログラム(海外から留学している大学生・大学院生とのフィールドワーク)を実施した。

<クラス別研修について>

各クラスごとに研修場所と研修内容を決定した。研修の分野は歴史・文化・自然・科学などから自由に選択、研修形態も学習型・体験型など目的に応じて様々な形で実施した。研修旅行前に研修内容についての事前学習を行い、また研修旅行後には事後学習を行った。事後学習は現地での研修の振り返り、研修内容のまとめ、クラス内での発表会などを各クラスで工夫を凝らして実施した。

<B&Sプログラムについて>

生徒6～7名が1グループとなり、海外から日本に留学している大学生・大学院生とともに京都を散策するプログラムで、コミュニケーション能力や積極性を身につけるとともに、文化の違いを越えた相互理解を育むことを目的としている。事前に各グループでテーマや訪問の目的を検討し、訪問地を決定した。当日はホテルで留学生と自己紹介・研修スケジュールの確認を行ってから出発、各自が留学生とコミュニケーションをとりながら訪問地を回った後、最終の集合場所に帰着した。

<成果と課題>

- ・研修旅行後の生徒アンケートでは、研修旅行全般について、大部分の生徒が満足したと答えている。「貴重な経験ができた」「クラスの間関係が深まった」「とても良い思い出になった」といった肯定的な感想がほとんどであった。
- ・B&Sプログラムでは、「留学生と積極的に交流できた」が約85%、「英語でコミュニケーションを取ることに自信がついた」が約70%、「研修内容が深まった」と回答した生徒が約90%で

あった。英語で積極的に会話することができた生徒が多く、コミュニケーション能力を育てる一助となったと思われる。自分の思いを英語で十分に表現できなかったことから、もっと英語力をつけたいと感じた生徒もいた。また、留学生を通して海外の文化に触れたことで、グローバルな視野が育ったように思われる。ただ「事前の調査を十分に行えた」と答えた生徒は約60%にとどまっており、研修旅行の2度にわたる計画変更により、十分な事前準備の時間が取れなかったことが悔やまれる。全体としては、海外研修でのB&Sとほぼ同等の効果を上げることができ、当初の目標は達成されたと思われる。

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため、様々な面で制限が生じたが、コロナ感染はもちろん、大きな病気や怪我もなく全旅程を終えることができた。ただ「生徒たちが望む研修旅行」と「コロナ対策」とのバランスが難しかった。
- ・年度途中での計画変更により、一度立てた旅程や研修計画・事前学習を一からやり直すことになったが、必要な時間を十分に取れなかったために、生徒主体での計画作成、事前学習、研修旅行委員の活躍の場などが不足していたように思われる。全てにおいて生徒が主体的に実施していく研修旅行が理想である。

